

2017年度 事業報告

社会福祉法人 横浜いのちの電話



m. kawachi
14.5.11 カンパネーラ
(キキョウ科)



目次

はじめに	1
横浜いのちの電話の活動	1
電話相談活動	2
研 修	2
活動報告	3
相談員数と受信件数	5
電話受信状況	6
2017年度 資金収支計算書	10
2017年度 貸借対照表	10
2018年度 事業計画	11
2018年度 資金収支予算書	12
法人組織	13
寄付報告 感謝録	14
事業支援委員会 感謝録	16



はじめに

2017（平成29）年度の事業活動と収支決算をここにご報告いたします。この1年間も、日本語電話相談、外国語電話相談をはじめ電話相談活動を無事に続けることができました。皆さまからのご支援、ご協力に、心から感謝いたします。

私ども横浜いのちの電話の日本語相談は、「いつでも、誰でも、どこからでも」という電話の即時性と匿名性を保持し、電話で寄り添うことを大切にしながら、認定されたボランティアにより年中無休24時間体制の自殺予防電話相談活動を行っております。また、中南米からの在日外国籍の方々のためのスペイン語、ポルトガル語による外国語相談も同じく認定されたボランティアにより週3日の活動を続けています。さらに心理や法律の電話による専門相談を行うとともに、「相模原市自殺予防電話相談事業」を受託し、継続実施することもできました。

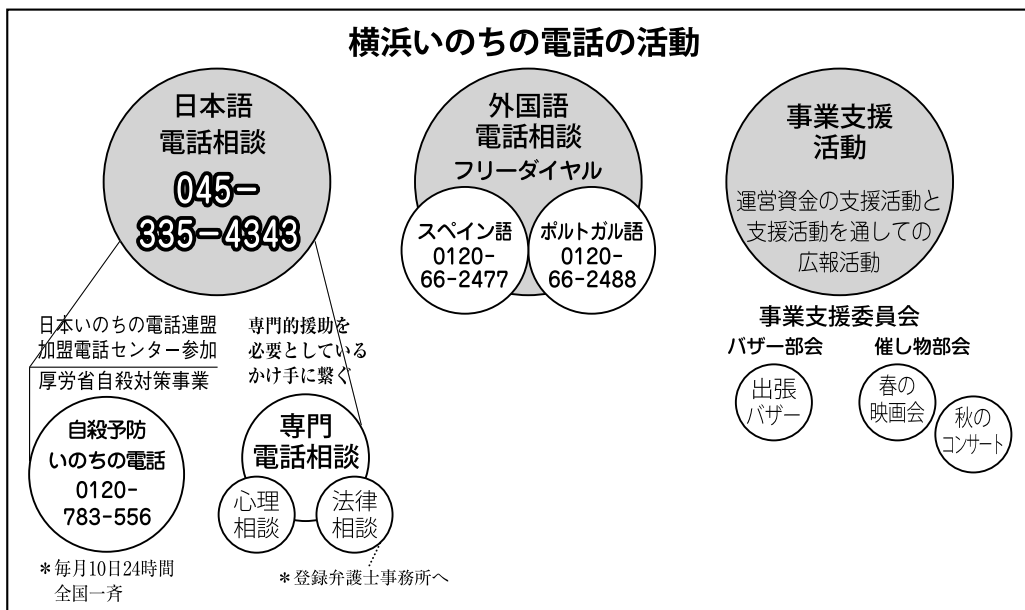
これからも、社会福祉法人としての自覚と責任を担いながら、《いのちを大切に》市民活動を続けてまいります。常に自殺予防としての電話相談の質を問い直し、「かながわ自殺対策会議」「よこはま自殺対策ネットワーク協議会」をはじめ県市の行政機関、関係諸団体と連携、協力しながら、生きる力を信じて支え、お一人おひとりの電話に寄り添う、柔軟な自殺予防活動に取り組んでいきたいと思っております。

最後になりますが、私は2018年6月18日付で理事長に就任いたしました。横浜いのちの電話が創設された時にボランティアとして関わり、これまで活動を続けてきました。初代の白戸三郎理事長をはじめ、多くの方々の「いのちの電話」に対する熱い思いを感じ、また指導を受けながら私自身育てられてきたと思っています。これからは西崎猛之前理事長をはじめ皆さま方のご指導、ご鞭撻を受けながら、微力ではありますが、横浜いのちの電話が大切にしてきたことを受け継ぎつつ重責を担っていきたくと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

横浜いのちの電話の各電話相談には、多くの方々が電話をかけてくださっており、私どもの役割や必要性を強く感じさせられています。しかし、話し中などにより全ての方々の相談に応じきれていない現状であり、より良い相談体制を整え、より多くの、そして質の高い相談をお受けできるように、これからも努力していかねばならないと感じています。

2年後には、創設40周年という節目の時を迎えます。横浜いのちの電話がこれからもより良い相談ができるように、皆様方のご支援ご協力を心からお願い申し上げます。

2018年7月
社会福祉法人 横浜いのちの電話
理事長 松橋秀之



電話相談活動

日本語相談

※日本語相談の統計数字は日本ののちの電話連盟にあわせて年（1月～12月）で集計

1. 一般電話相談 045-335-4343

- (1) 年中無休24時間体制の電話相談活動を継続した。
- (2) 実働相談員167名（2016年174名）が原則として月2回の電話担当に入り、21,372件（2016年21,306件）の電話相談を受信した。

2. 専門相談（心理・法律）

専門的援助を必要としているかけ手に対しては、一般相談から専門相談につなぎ対応した。
受信件数 心理専門相談 282件（2016年260件） 法律相談 60件（2016年65件）

3. フリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」 0120-783-556

- (1) 厚生労働省の自殺防止対策事業（自殺防止対策事業補助金交付）である「自殺予防いのちの電話」に引き続き参加し、毎月10日フリーダイヤルで相談を受けた。
- (2) 県及び市町村に、ポスター、カード配布等の広報活動を行った。
- (3) 受信件数792件（2016年739件）のうち自殺に関する件数209件（2016年235件）担当した延べ相談員数192名（2016年192名）

外国語相談 LAL（Linea de Apoyo al Latino/Linha de Apoio aos Latinos）

フリーダイヤル相談も実施している

- (1) 主に中南米からの外国籍県民を対象に母語（スペイン語・ポルトガル語）のメンタルヘルス相談を神奈川県と横浜市の援助により実施した。相談員の国籍は9ヶ国で、担当した相談員数は49人（うち日本人12人）である（2016年は9ヶ国で、担当した相談員数は48人（うち日本人11人））受信件数1,957件（2016年1,306件）。スペイン語631件（2016年268件）、ポルトガル語1,326件（2016年1,038件）。
- (2) 開局（1993年9月1日）以来の受信件数は26,159件である。

研 修

日本語電話相談員

1. 養成研修

- (1) 全国的に応募者の減少がみられる中、積極的な広報活動を実施し19名（2016年19名）の方の応募があった。
- (2) 「応募動機」「自分史」の応募書類を審査し、そして「面接」を行い、14名（2016年21名）の方を選考し、前期研修（4月から9月）として人間関係基礎研修（合宿含む）、ロールプレイ研修などを実施した。
- (3) 後期研修（10月から翌年2月）は、専門分野の講師による、「いのちの電話の成り立ち」や「精神保健」、「相談対応」などについての講義を全10回実施した。また、実習として電話インターン研修を実施した。
- (4) 前期研修、後期研修を通して、相談員としての適性を審査した結果、4名（2016年7名）の方を認定し、3月24日（土）に認定証を授与した。なお、応募から研修期間中に体調不良や家庭・仕事の事情等により研修が継続困難となり10名の方の辞退があった。認定者は4月から相談員としてボランティア活動に参加する。

2. 継続研修

相談員は、認定された後も引き続き各種研修が義務付けられている。相談員として継続するためには研修は必修である。

(1) 初任者研修

認定された直後の相談員を対象に、1年間、月1回の研修を実施した。

(2) 地区別グループ研修

相談員は15ある地区別グループのいずれかに所属することとしており、毎月1回、研修を実施した。グループは良き聞き手となるための学びを深めると共に、相談員同士の支え合いの場となっている。

(3) 全体研修

相談員全員が幅広い知識を習得し相談活動に役立てるために、年2回の研修を企画し実施した。

第1回 「性犯罪被害にあうということ」

講師 小林 美佳（性犯罪被害者支援活動「みかつき」主宰）

7月1日（土）14：00～16：00

於：ウィリング横浜5階501・502研修室（111名参加）

第2回 「自分を傷つけずにはいられない～自傷行為の理解と援助」

講師 松本 俊彦（国立精神・神経医療研修センター薬物依存研究部長）

11月12日（日）15：00～17：00

於：ウィリング横浜5階501・502研修室（93名参加）

(4) 継続スーパービジョン

電話相談を熟知した7名のスーパーバイザーによるスーパービジョン（2時間）を、165名（2016年170名）に対して実施した。

3. 研修担当者

(1) 研修担当者会

相談員養成研修、相談員継続研修など研修全般に関わる内容について、企画、提案、課題対応を行うために5回開催した。

(2) 研修担当者研修

研修担当者としてのスキルアップを図るため、事例研修及び自己理解・他者理解を深めるためのグループ研修（1泊2日）を実施した。

また、「電話対応における課題と対応」について高塚雄介明星大学名誉教授の講義を企画し実施した。

(3) 研修担当者養成研修

研修担当者を養成するために研修を企画し実施した（研修期間は2年以上）。

2017年度は4名の参加があり、事例研修及び自己理解・他者理解を深めるためのグループ研修（2泊3日）を実施した。

外国語電話相談員

1. 養成研修

(1) 相談員養成研修はスペイン語・ポルトガル語ともに5月から12月まで24回の講義（理論・ロールプレイ）、1月から3月まで電話インターン研修を現地した。

(2) 研修生7名のうち、6名（スペイン語3名、ポルトガル語3名）が認定され、3月24日（土）に認定証を授与した。国籍はペルー2名、ブラジル2名、日本2名である。4月から相談活動に入る。

2. 継続研修

相談員継続研修では、相談員が組織の一員として活動していることへの理解を深めることを目的に、心理学のテーマに基づいたグループワークを多く実施した他、対応の難しい相談の事例検証や、対応のテクニックや心構えを振り返るスーパービジョンを行いながら、相談対応の改善を図った。その他研修担当者による個人またはグループでのスーパービジョンを計20回実施した。

活動報告

対外活動

(1) 神奈川県自殺対策行政の一環として、「かながわ自殺対策会議」へ委員として2回参加した。

(2) 横浜市主催の「よこはま自殺対策ネットワーク協議会」へ、委員として参加した。

(3) 相模原市自殺対策協議会へ、委員として年4回参加した。

(4) かながわ自殺対策会議のメンバーと、9月11日（火）JR横浜駅構内で自殺防止啓発のチラシを配布した。

(5) いのちの電話連盟主催でJR東日本関係者と、9月8日（金）JR横浜駅構内で「自殺予防いのちの電話」の啓発チラシを配布した。

(6) 官民共催のAIDS文化フォーラムIN横浜の委員として、大会に参加した。

(7) 連盟主催の関東甲信越ブロック会議に出席、2018年度は横浜センターが担当となった。

(8) ブラジル領事館主催有識者会議に、外国語相談LALコーディネーターが毎月参加した。

広報活動として、ブラジル、ペルー、ボリビア関連フェスティバルにてパンフレットの配布を実施する

- とともに、ブラジル人支援NGOや領事館主催のセミナー・イベントに参加し、交流を深めた。
- (9) 川崎いのちの電話の事務局及び相談員委員会と当法人の事務局と相談委員会で、川崎いのちの電話会議室において交流会を行った。

相談委員会

1. 相談委員会定例会

相談員委員会は、相談員の継続研修を行う各地区別グループから選出された相談員委員会委員、事務局長、研修担当者会の委員で構成され、原則として毎月第1土曜日 13:30~15:30 (8月は休会)開催し次の活動を行った。

- (1) 相談活動における連絡・報告を通じて、相談員間の情報の共有を行った。
- (2) 相談員として必要な基本的な心構え及び組織の一員として活動することを適宜、再確認し合った。
- (3) 電話相談活動におけるいろいろな課題について話し合った。特に、24時間体制を維持するため、深夜を担当する相談員をどのようにして確保するかについて、2016年度後半から引き続き2017年度前半において活発な話し合いを行った。
- (4) 事業支援会との連携
定例会に、年1回催し物部会及びバザー部会の代表を招き活動の説明を受け、相談員との連携を図った。

2. 研修・行事の担当

相談員は組織の構成員でもあるため、年2回開催される相談員の全体研修、新年会及び相談員認定式の行事の準備・進行を地区別グループが担当した。

3. 相談員のつどいの開催

つどいは、相談員のための話し合いの場として年1回開催しており、2017年度は「相談活動で気になること」をテーマにワールドカフェ方式で実施した。この主旨は、相談員は電話相談の担当と自身が属するグループでの研修が中心で、グループ外の相談員との話し合いの機会が少ないこともあり、ワールドカフェ方式でいろいろな相談員と知合いになる機会を設けたものである。

話し合いの内容はおおむね、①電話相談活動を行っているうえで自身が抱えている問題②実際の電話相談における悩み③組織としての電話相談活動を向上するためのこと、に分類できた。

参加者からは、個人としても組織の一員としても常に共通の意識を持つため、知らない仲間とのコミュニケーションの必要性を改めて感じたとの感想が多かった。

事業支援委員会

横浜いのちの電話の活動をより社会に広め、運営資金を得ることで事業を支援するために、次のような活動を実施し、法人会計へ200万円の繰り入れをした。また、このような支援活動を通して、横浜いのちの電話の支援と協力をお願いする広報活動を行った。会員数約60名。

1. バザー部会

- (1) 毎回20名前後の会員が月3~4回の仕事会に参加し、バザー商品を製作した。
- (2) 出張バザーを16会場(カトリック雪ノ下教会・日本基督教団横浜港南台教会・日本基督教団鎌倉恩寵教会・フレンドリースペース金沢・ブラジルフェスタ・カトリック鶴見教会・カトリック山手教会・カトリック渋谷教会・公益財団法人鎌倉婦人子供会館・戸塚フォーラム祭り・カトリック二俣川教会・カトリック菊名教会・日本基督教団逗子教会・湘南YMCA・横浜いのちの電話新年会・横浜いのちの電話春の映画会)の協力を得て実施した。

2. 催し物部会

- (1) 秋の催し 「沖仁フラメンコギターコンサート」
2017年9月15日(金) 18:30~20:10 於: 関内ホール
チケット売上771枚 当日入場者754名(含招待者)
- (2) 春の映画会「人生フルーツ」
2018年3月9日(金) 第1回目11:00~12:40 第2回目14:30~16:10 第3回目18:30~20:10
於: さくらプラザホール チケット売上1,057枚 当日入場者数945名

広報活動

- (1) 広報「横浜いのちの電話」の発行 93号(5月)・94号(11月)
- (2) 事業報告書の発行 (7月)

ボランティア間の交流

横浜いのちの電話では、日本語相談・外国語相談・事業支援ボランティア・特別技能ボランティアが活動しており、単独または合同での場を設け、相互の交流を深めている。

1) 外国語電話相談員総会	4月22日(土)	10:00~13:00	16名
2) 外国語電話相談員クリスマス会	12月3日(日)	13:00~16:00	25名
3) 新年会	1月7日(土)	12:00~15:00	56名
4) 相談員と心理専門相談員との交流会	1月28日(土)	13:30~15:30	27名
5) 日本語電話相談員の集い	2月12日(祝月)	13:30~17:00	45名

募金活動

横浜いのちの電話の活動のために多くの維持会員・賛助会員から寄付をいただいた。

寄付金収入合計 7,855,305円 (2016年9,239,378円)

維持会費459件(個人428件 団体8件 法人23件) 2,608,000円 (2016年2,615,330円)

一般寄付456件(個人384件 団体48件 法人24件) 5,247,305円 (2016年6,624,048円)

神奈川県地域自殺対策強化交付金事業

神奈川県より200万円の交付金事業費補助金を受け、主に相談員の研修にあて、相談対応の改善につなげる等、自殺防止対策のために使用した。

相模原市自殺予防電話相談業務を受託(2013年度より5年間継続活動中)

- (1) 相模原市は、自殺総合対策の一環として、「自殺予防電話相談業務」を実施している。一人で抱え込まず相談する中で一緒に生きる道を探す一助とし、相談者の苦悩の実態を把握することで、自殺総合対策に役立てることを目的としている。
- (2) 横浜いのちの電話では相模原市から業務委託を受け、毎週日曜日(年末・年始を除く)の午後5時から午後10時まで、その相談業務を担っている。2017年度実績 50日間。
- (3) 相談内容
自殺に追い込まれそうな人の相談、大切な家族等を自殺で亡くした遺族の相談、不安・孤独・絶望に悩んでいる人の相談等。

相談員数と受信件数

相談員数	
日本語相談	228名
専門相談	心理相談 15名
	法 律 4名
外国語相談	49名
受信件数	
日本語相談	実相談数 21,372件
	(うち自殺志向) 2,382件
	(うち自殺予防フリーダイヤル) 792件
専門相談	心理相談 282件
	法 律 60件
外国語相談	スペイン語 631件
	ポルトガル語 1,326件

受信状況の推移		
年度	日本語(件)	外国語(件)
2008 4~3月	22,028	1,037
2009 4~3月	21,142	1,239
2010 4~3月	22,067	1,429
2011 1~12月	22,051	945
2012 1~12月	21,526	950
2013 1~12月	21,728	792
2014 1~12月	21,509	1,126
2015 1~12月	21,256	1,179
2016 1~12月	21,306	1,306
2017 1~12月	21,372	1,957

※日本語相談受信期間 (2016年1月1日~2016年12月31日)

※外国語相談受信期間 (2016年4月1日~2017年3月31日)

電話受信状況 相談データ

【電話相談の状況】

1. 日本語電話相談年代別・男女別受信件数（図1，表1）

2017年の受信件数は、21,372件で2016年に比べ66件増加した。相談員数は減少傾向であるが、受信件数には影響していない。男女別では、女性（59%）が約6割を占めている傾向は変わりがない。年代別では、男性は40代が最多で50代、30代と続き、女性は50代が最多で、60代、40代と続くのは2016年と同様である。匿名性を尊重しているため、年齢不明が4割近くとなっているが、年代がわかる受信件数のうち、10代（2.4%）、20代（6.8%）と、若者からの相談件数が少ない一方で、50代（26.0%）、60代（20.6%）の占める割合が増加傾向にある。

2. 日本語電話相談内容別受信件数（図2，表2）

内容別では、「精神」が最多（26.5%）で、「人生」（18.3%）、「家族（親族を含む）」（13.7%）、「対人」（10.3%）となっている。それぞれの内容を見ると、「精神」は病気に関するものが、「人生」では生き方、生きがいや孤独が、「家族（親族を含む）」では不満、介護、子育てが、「対人」では不和・トラブル、ハラスメント、いじめが主なものとなっている。年代別にみると20代～50代が「精神」が最も多くなっているのに対し、10代以下は「家族」、60代以上は「人生」が最も多くなっている。

3. 日本語電話相談年代別受信件数と自殺志向率（図3，表3）

受信件数に対する自殺志向数は2,382件で、自殺志向率は11.1%と2016年（11.8%）に比べわずかながら減少している。年代別では、9歳以下を除き40代、50代、30代の順で自殺志向数が多くなっている。一方自殺志向率では、40代、30代、10代、20代の順で高くなっており、反対に低いのは、60代、70代以上、50代の順である。男女別では、男性が40代、50代が高いのに対し、女性は10代が最も高く、次いで20代、30代となっている。

4. 日本語電話相談 内容別受信件数自殺志向率（図4，表4）

内容別の自殺志向数は、「精神」、「人生」、「家族」の順で高くなっている。自殺志向率は、精神（16.9%）、経済（15.5%）、人生（15.4%）の順となっており、受信件数としては少ない「経済」の自殺志向率が高くなっている。自殺志向のほとんどは自殺念慮であるが、より危険度の高い「予告・通知」が受信件数61件中「人生」で20件、「精神」で18件となっており、さらに「実行中」では9件中、「精神」「人生」共に4件となっている。これら2項目は件数が多いだけでなく、危険度が高いものも含んでいるといえる。

5. 日本語フリーダイヤル（図5，表5）

毎月10日、全国のセンターとオンラインでつなぎ、フリーダイヤルで日本全国からの電話を受けている。男性からの相談件数が多いのは、通常電話での全国の状況と合致している。年代別の内訳は40代、50代、30代が多く、通常ダイヤルとほぼ同様であるが、自殺志向率は全ての年代で高くなっている。男女別では、女性が通常電話（10.6%）に比べ、31.1%と高くなっており、内容別でも通常電話が「精神」、「経済」、「人生」の順で多くなっているのに対し、フリーダイヤルでは、「経済」、「夫婦」、「身体」となるなど違いが見受けられる。

6. 心理専門相談（図7）

相談件数は、2016年（260件）よりやや増加した。心理専門相談は、一般相談からの紹介により心理的課題を継続的にケアしていくことを目的としている。そのため、内容別では「精神」がほとんどを占めている。その内訳としては、生き方や病気・体調への不安を訴える相談が際立っているほか、病気が引き起こす家族とのトラブルや対人関係、自殺願望等となっている。

7. 法律専門相談（図8）

相談件数は、2016年（65件）よりさらに減少した。内容別では、「離婚」が最も多く、「相続・贈与」、「家族・扶養」と家族間の問題が多い傾向が続いているまた、「近隣問題」、「ハラスメント」等の対人関係が原因となる相談も見受けられ、社会情勢を反映している。

8. 外国語相談（図6, 表6）

受信件数に増加はあったが、カテゴリのタイプには変更が目立たなかった。両言語ともに、去年と同じく、人生問題、特に精神に関わる相談は増加している。なお、性的いたづらが5倍増えたのが気にかかる。

日本語電話相談年代別・男女別受信件数

図1

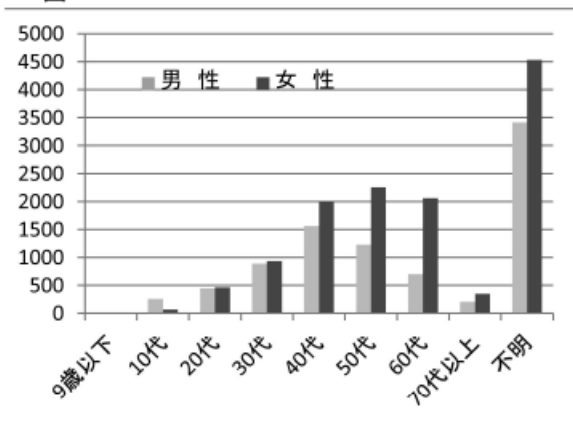


表1

年代別	男性	女性	合
9歳以下	2 (11)	1 (0)	3
10代	257 (275)	66 (106)	323
20代	449 (564)	463 (454)	912
30代	892 (811)	933 (853)	1,825
40代	1,564 (1,440)	2,000 (1,099)	3,564
50代	1,231 (1,046)	2,255 (2,719)	3,486
60代	702 (622)	2,059 (1,876)	2,761
70代以上	204 (310)	351 (367)	555
不明	3,410 (3,139)	4,533 (4,514)	7,943
合計	8,711 (8,218)	12,661 (13,088)	21,372

* ()内は2016年

日本語電話相談内容別受信件数

図2

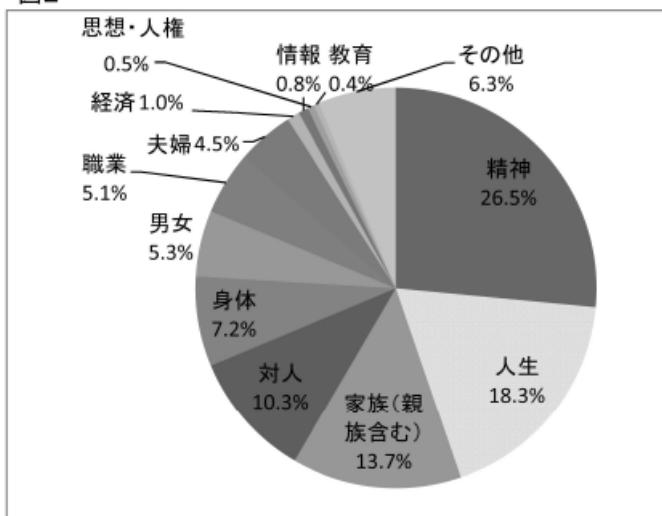


表2

内容別	件数	割合
精神・保健	5,663 (5,753)	26.5%
人生	3,903 (3,902)	18.3%
家族(親族含む)	2,922 (2,966)	13.7%
対人	2,199 (2,167)	10.3%
身体	1,545 (1,638)	7.2%
夫婦	1,139 (1,093)	5.3%
職業	1,097 (1,010)	5.1%
男女	963 (957)	4.5%
経済	219 (272)	1.0%
情報	172 (159)	0.8%
思想・人権	116 (113)	0.5%
教育	90 (89)	0.4%
その他	1,344 (1,187)	6.3%
合計	21,372 (21,306)	100.0%

()内は2016年

日本語電話相談 年代別受信件数自殺志向率

図3

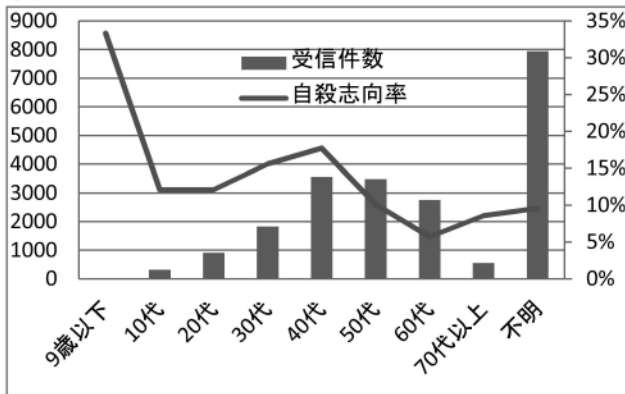


表3

年代別	受信件数	自殺志向数	自殺志向率
9歳以下	3	1	33.3%
10代	323	39	12.1%
20代	912	110	12.1%
30代	1,825	285	15.6%
40代	3,564	631	17.7%
50代	3,486	348	10.0%
60代	2,761	158	5.7%
70代以上	555	48	8.6%
不明	7,943	762	9.6%
合計	21,372	2,382	11.1%

日本語電話相談 内容別受信件数自殺志向率

図4

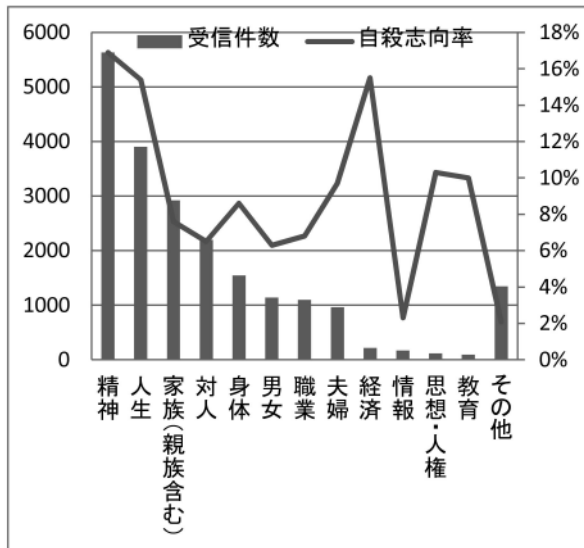


表4

内容別	受信件数	自殺志向率	自殺志向数
精神	5,663	16.9%	955
人生	3,903	15.4%	601
家族(親族含む)	2,922	7.6%	223
対人	2,199	6.5%	143
身体	1,545	8.6%	133
男女	1,139	6.3%	72
職業	1,097	6.8%	75
夫婦	963	9.7%	93
経済	219	15.5%	34
情報	172	2.3%	4
思想・人権	116	10.3%	12
教育	90	10.0%	9
その他	1,344	2.1%	28
合計	21,372	11.1%	2,382

日本語電話相談フリーダイヤル

図5

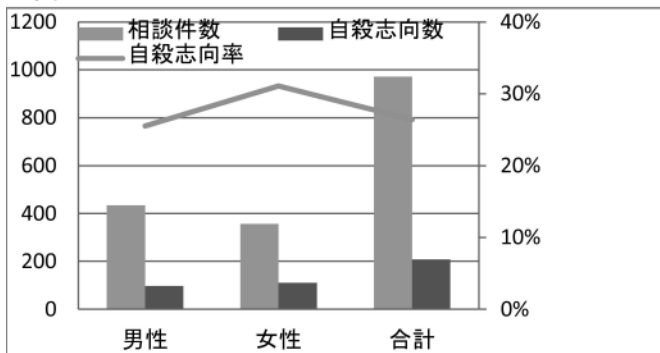


表5

	男性	女性	合計
相談件数	435	357	792
自殺志向数	98	111	209
自殺志向率	25.5%	31.1%	26.4%
平均通話時間	15.7分	23.2分	19.1分

心理専門相談・内容別受信件数

図6

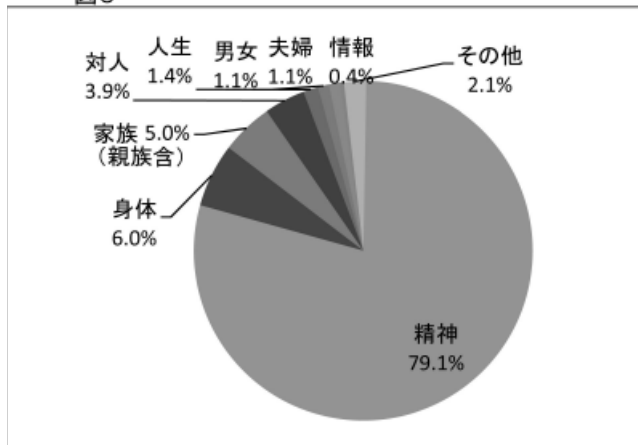


表6

項目	受信件数	割合
精神	223	79.1%
身体	17	6.0%
家族(親族含む)	14	5.0%
対人	11	3.9%
人生	4	1.4%
男女	3	1.1%
夫婦	3	1.1%
情報	1	0.4%
その他	6	2.1%
合計	282	100.0%

精神保健(223件)の主な内容

人生・生き方	43件
病気悪化・体調	40件
病気が引き起こす問題	35件
家族との問題	21件
対人関係	20件
職業	14件

法律相談・内容別受信件数

図7

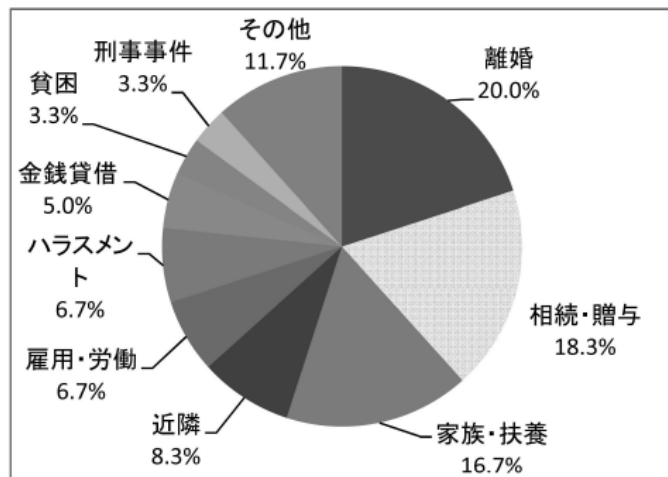


表7

項目	受信件数	割合
離婚	12	20.0%
相続・贈与	11	18.3%
家族・扶養	10	16.7%
近隣	5	8.3%
雇用・労働	4	6.7%
ハラスメント	4	6.7%
金銭貸借	3	5.0%
貧困	2	3.3%
刑事事件	2	3.3%
その他	7	11.7%
合計	60	100.0%

外国語・内容別受信件数

図8

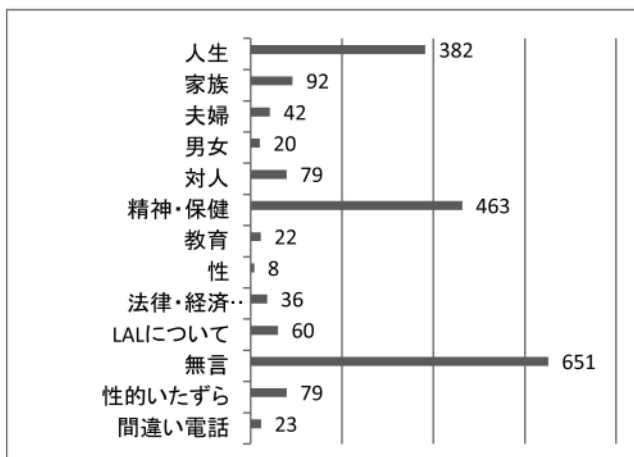


表8

	スペイン語	ポルトガル語	合計
人生	149	233	382
家族	30	62	92
夫婦	11	31	42
男女	10	10	20
対人	32	47	79
精神・保健	78	385	463
教育	21	1	22
性	4	4	8
法律・経済	20	16	36
社会・環境			
LALについて	34	26	60
無言	195	456	651
性的いたずら	37	42	79
間違い電話	10	13	23
合計	631	1,326	1,957

2017年度 決算報告

資金収支計算書 (自平成29年4月1日(至)平成30年3月31日) (単位:円)

勘定科目		予算	決算	差異
事業活動による収支	収入			
	事業支援委員会収入	6,300,000	8,010,194	1,710,194
	寄付金収入	6,500,000	7,855,305	1,355,305
	経常経費補助金収入	8,000,000	8,000,000	0
	研修事業収入	2,050,000	1,225,000	△ 825,000
	共同募金配分金収入	320,000	270,000	△ 50,000
	委託事業収入	1,020,000	984,000	△ 36,000
	雑収入	10,000	48,000	38,000
	受取利息配当金収入	60,000	42,641	△ 17,359
	事業活動収入計(1)	24,260,000	26,435,140	2,175,140
支出	人件費支出	12,664,280	11,470,679	△ 1,193,601
	事業費支出	8,774,720	10,428,486	1,653,766
	事務費支出	2,701,000	2,482,340	△ 218,660
	事業活動支出計(2)	24,140,000	24,381,505	241,505
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)		120,000	2,053,635	1,933,635
施設整備等に よる収支	収入			
	施設整備等収入計(4)	0	0	0
	支出			
固定資産取得支出	120,000	128,304	8,304	
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)		△ 120,000	△ 128,304	△ 8,304
その他の活動によ る収支	収入			
	事業区分間繰入金収入	2,000,000	2,000,000	0
	その他の活動による収入計(7)	2,000,000	2,000,000	0
	支出			
	積立資産支出	0	1,761,000	1,761,000
事業区分間繰入金支出	2,000,000	2,000,000	0	
その他の活動支出計(8)	2,000,000	3,761,050	1,761,050	
その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)		0	△ 1,761,050	△ 1,761,050
予備費支出(10)		0	0	0
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)		0	164,281	164,281
前期末支払資金残高(12)		3,235,557	9,769,470	6,533,913
当期末支払資金残高(11)+(12)		3,235,557	9,933,751	6,698,194

貸借対照表 平成30年3月31日現在 (単位:円)

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
流動資産	10,934,915	流動負債	1,001,164
現金預金	8,854,915	未払金	389,772
未収入金	2,080,000	預り金	31,392
固定資産	135,422,440	前受金	580,000
基本財産	100,000,000	固定負債	100,000
第1号基本金	10,000,000	退職給与引当金	100,000
基本財産積立預金	90,000,000	負債の部の合計	1,101,164
その他の固定資産	35,422,440	純資産の部	
器具及び備品	1,081,491	基本金	100,000,000
ソフトウェア	6,475	第1号基本金	10,000,000
権利	890,644	基本財産積立金	90,000,000
国際交流積立預金	3,000,000	国庫補助金等特別積立金	722,920
基本財産積立準備預金	12,982,780	国庫補助金等特別積立金	722,920
備品購入積立預金	1,900,000	その他の積立金	33,343,830
別途積立預金①	200,000	国際交流積立金	3,000,000
別途積立預金②	3,500,000	基本財産積立準備金	12,982,780
将来構想基金積立預金	10,000,000	備品購入積立金	1,900,000
引当金積立預金	100,000	別途積立金①	200,000
40周年記念事業積立金	1,000,000	別途積立金②	3,500,000
ブラジルファンド	761,050	将来構想基金積立金	10,000,000
		40周年記念事業積立金	1,000,000
		ブラジルファンド	761,050
		次期繰越活動収支差額	11,189,441
		純資産の部合計	145,256,191
資産の部合計	146,357,355	負債及び純資産の部合計	146,357,355

監査報告書

社会福祉法人横浜いのちの電話における平成28年度の貸借対照表ならびに収支計算書、財産目録などについて監査を実施したところ、事業の運営及び会計上、健全で、かつ公正に処理されているものと認めましたので報告します。

平成30年5月15日

監事 野沢 豊
監事 目黒 裕

2018（平成30）年度事業計画

社会福祉法人横浜いのちの電話は、2018年度も「いつでも、だれでも、どこからでも」の原点に立ち、ボランティアによる自殺予防を中心とした眠らぬ電話相談活動を継続していきます。いのちを大切にする市民（ボランティア）運動として、その輪を広げていきます。

横浜いのちの電話基本理念にもとづき、次のとおり実施します。

I. 電話相談事業《電話の即時性をもって匿名を確保し、寄り添う》

1. 24時間、年中無休の日本語相談活動を継続する。
2. 日本語電話相談のうち、専門的援助を必要とするかけ手を対象に、専門相談（心理・法律）を継続する。
3. スペイン語、ポルトガル語を母国語とするかけ手を対象に外国語電話相談活動（スペイン語・ポルトガル語）を継続する。

II. 電話相談員の養成とスキル向上《ひとりの人間としての成長を図る》

1. 電話相談員を育成するために電話相談員養成研修（1年間）を実施し、適性者を認定する。
2. 電話相談員のスキルの向上の研修を実施する。
 - (1) 日本語相談
 - ① 専門家による個人スーパービジョン（全員年1回必修）
 - ② 地区別グループ研修
 - ③ 全体研修会
 - (2) 外国語相談
 - ① 専門家による講座（年5回程度）
 - ② 個人スーパービジョン（全員年1回以上必修）
3. 研修担当者養成研修を実施し、研修担当者を育成する。
4. 相談員が活動しやすくなるよう福利厚生の実施や相談環境改善に努める。

III. ボランティアの募集《自発的に参加するボランティアによって支えられている》

1. 日本語電話相談員、外国語電話相談員及び事業支援ボランティアを積極的に募集する。
2. 日本語電話相談については24時間体制を維持するために、また外国語相談の継続のために、マスメディア、各自治体及び他機関の協力を得る。

IV. 個人・法人の自覚と責任を持ち、運動体として活動する

1. 広報活動
 - (1) 広報誌「横浜いのちの電話」を発行する（5月・11月）。
 - (2) 「事業報告書」を作成し、発行する（7月）。
 - (3) ホームページを常に更新し、充実させる。
 - (4) パンフレット、カード等の配布資料を作成し、有効に活用する。
 - (5) 外国語電話相談を必要とする人々への広報活動及び支援者の輪を広げる。
 - ① 各種雑誌への掲載や、ホームページを用いて広報活動を積極的に行う。
 - ② 国際交流協会、各国大使館・領事館及び外国人援助団体などとの連携を深める。
 - (6) 公開講座を開催し広報活動を行うとともにボランティア募集活動の推進を図る。
2. 事業支援者の確保と拡大
 - (1) 事業支援委員会のもとに設置した財政支援部会を基軸に積極的に募金活動及び企業団体への働きかけを推進する。
 - (2) 維持会員・賛助会員の継続及び新規会員の加入に努める。
 - (3) 法人・団体の維持会員の新規加入に努める。
 - (4) 寄附金の拡大を図るため、寄附者に対する税額控除制度（国・県・市）対象法人としてのメリットを継続的にPRし、認可団体としての継続・維持に努める。
 - (5) ライオンズクラブ、ロータリークラブ、及び諸団体との連携を深め、協力を依頼する。
3. 事業支援委員会活動として、バザー、コンサート及び映画会などの実施。
4. 社会福祉法人制度改革に伴う法人としての体制確立と適正運営の維持・強化及び社会福祉充実事業の推進により相談活動の改善を図る。

5. 2020年9月に迎える40周年記念事業に向け準備活動を開始。

V. 県・市等行政及び他機関との連携 《社会との協働》

1. 日本いのちの電話連盟及び加盟電話センターと連携、協力する。
 - (1) 2018年度厚生労働省補助事業による自殺予防活動の一環として、毎月10日に実施される連盟主催の自殺予防フリーダイヤルへ継続参加する。
 - (2) 研修、広報活動など加盟電話センターと連携、協力をする。
2. 毎年9月10日の「世界自殺予防デー」に合わせ、かながわ自殺対策会議メンバー及びJR関係者と共に、横浜駅にてカード配布のPR活動を実施する。
3. 神奈川県下の川崎いのちの電話と連携を深める。
4. かながわ自殺対策会議、よこはま自殺対策ネットワーク協議会、相模原市自殺対策会議のメンバーとして、神奈川県・横浜市・相模原市・他の市町村及び関連機関との連携を深め、自殺防止活動に参画し、寄与する。
5. 相模原市からの自殺予防専門電話相談"いきる"ホットラインの委託事業を継続する。
6. エイズ文化フォーラムinよこはまに組織員として参加する。

資金収支予算書

(自)平成30年4月1日 (至)平成31年3月31日

(単位:円)

勘定科目			合計
事業活動による収支	収入	事業支援委員会収入	6,400,000
		寄付金収入	6,500,000
		経常経費補助金収入	8,000,000
		研修事業収入	1,760,000
		共同募金配分金収入	270,000
		委託事業収入	1,040,000
		雑収入	10,000
		受取利息配当金収入	60,000
		事業活動収入計(1)	24,040,000
	支出	人件費支出	12,634,000
		事業費	10,883,000
事務費支出		3,103,000	
事業活動支出計(2)		26,620,000	
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)			△ 2,580,000
施設整備等に よる収支	収入	施設整備等補助金収入	0
		施設整備等収入計(4)	0
	支出	固定資産取得支出	0
		施設整備等支出計(5)	0
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)			0
その他の活動による収支	収入	事業区分間繰入金収入	3,150,000
		その他の活動による収入計(7)	3,150,000
	支出	事業区分間繰入金支出	3,150,000
		その他の活動支出計(8)	3,150,000
	その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)		
予備費支出(10)			120,000
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)			△ 2,700,000
前期末支払資金残高(12)			9,270,110
当期末支払資金残高(11)+(12)			6,570,110

法人組織

法人役員（2018年6月18日現在）

理事長	松橋 秀之	前 社会福祉法人日本水上学園 園長
理事	岩本 満	横浜いのちの電話 相談員委員会委員長
	大堀セツ子	横浜いのちの電話 研修委員会委員長
	笠井 政記	横浜いのちの電話 事業支援委員会委員長
	田口 努	公益財団法人横浜Y M C A 総主事
	千木良 正	小長井・千木良・渡邊法律事務所 弁護士
	西崎 猛之	社会福祉法人鎌倉静養館 理事長
	藤井ルッチ	横浜いのちの電話 外国語相談総会議長・コーディネーター
監事	野沢 豊	元 日本埠頭倉庫株式会社 常勤監査役
	目黒 裕	社会福祉法人大和しらかし会大和市障害福祉センター-松風園 施設長
評議会	飯島 信彦	社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会福祉サービス推進部部长
	井上 保男	前 神奈川県中央児童相談所 所長
	江淵 武雄	保土ヶ谷区民生委員児童委員協議会 会長
	新堀由美子	男女共同参画センター横浜 相談センター長
	竹内 直樹	開花館クリニック 副院長
	永井 撤	首都大学東京 都市教養学部 教授
	濱田 壮久	カトリック末吉町港南教会 主任司祭
	平野 孝夫	株式会社オリマツ 代表取締役社長
	政岡 弘道	宗教法人真光寺 代表役員（住職）
	山田 正夫	神奈川県精神保健福祉センター 所長

法人会議

理事会	第1回	2017年	5月24日	評議員会	定時	2017年	6月15日
	第2回	2017年	6月21日				
	第3回	2017年	10月24日				
	第4回	2018年	1月30日				
	第5回	2018年	3月27日				

苦情解決制度についてのお知らせ

社会福祉法人横浜いのちの電話が提供するサービスに関わる苦情に適切に対応するため、苦情解決の仕組みを整えています。

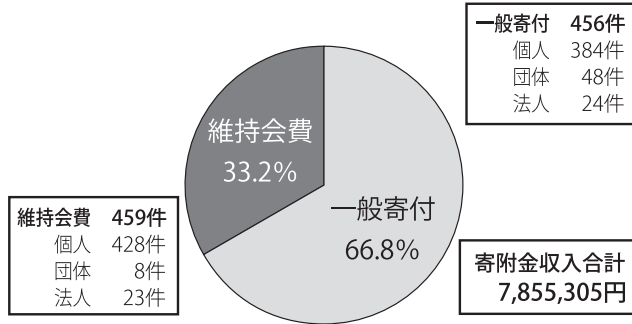
苦情の受付 横浜いのちの電話事務局

第三者委員 小川 恒子（学識経験者）
植田 薫（弁護士）
岩本 弥生（外国語相談）
永井 撤（評議員）
松原 康雄（明治学院大学 学長）

2017年度感謝報告

横浜いのちの電話は、多くの皆様方の心温まるご芳志により、活動を続けることができます。昨年度も多くの方々や団体、法人などの皆様からご寄付をいただきました。一同、感謝をもって、ここにご報告をさせていただきます。ありがとうございました。

尚、ご芳名につきましては、万全の注意を払ってはおりますが、万が一記載もれや誤字脱字がございました場合は、恐れ入りますが、事務局まで、ご一報いただけますと幸いです。また、個人情報保護上、今回は事前に掲載をご希望なされない方のお名前は掲載いたしておりません。今後、お名前の記載をご希望なされない場合もご一報のほどよろしくお願いいたします。敬称は省略させていただいておりますことご容赦願います。



2017年度

◎維持会費 (個人)

- ◆ア 相原 静子 青木 英人 青木 佳子 青田 雅子 青野 幸子 青山しのぶ 赤池 典子
- 明瀬カズミ 秋山 英代 浅岡いつ子 天川 祥子 天野 明子 雨宮 里美 荒井 献
- 新井 裕子 荒川 節子 有川紀巴子 有馬日出子 安蔵 富江 安藤実菜子 ◆イ
- 飯塚由紀子 家里 敦子 池田 敦子 池田 孝 池田 淑美 石井 初夫 石井 保弘
- 石川 章 石川えい子 石黒 郷子 石塚 博子 石附 峰子 石橋 幸夫 出雲 朝子
- 磯野喜美子 五十畑誠子 石川 充子 糸魚川規子 伊藤 君恵 伊藤 純子 伊藤 文子
- 伊藤まさ子 伊藤美華子 板坂 光明 今井 迪恵 今堀 愛子 岩澤 敏一 岩下由紀子
- 岩橋 圭子 岩橋 史明 猪俣 清子 岩本 理恵 ◆ウ 植木 あい子 植木 向子 植木 由美
- 植田 雅子 鶴養 宏 内山 理恵 梅田 淳子 大久保洋子 大久保芳子 山口チエ子
- 江口 洋子 江間 敦子 遠藤 恵子 大江 美香 大堀セツ子 大須賀洋・靖子
- 太田 桂子 大塚由香里 大貫まち子 大原英里子 大堀 恵子 大森友三子
- 岡崎 学 岡田 信子 岡田 美佐 岡本 恵子 岡本 恵子 岡本 連三
- 岡崎 恒子 小川由起子 大川原勝子 奥田 紀子 奥津 純世 奥原 静子
- 越智 雪江 小貫 洋子 小畑 克 小原 勉 小原 勉 鏡原 博子 柿沢 純江
- 加行 尚 榎村かおり 春日智恵美 片平光知子 片山功仁慧 金子 由紀 加藤 浩子 加藤 博子
- 加藤 文男 加藤真知子 加藤 葉子 門川 幸枝 金子 由紀 加野 俊恵 鎌田 麻子
- 上川 定子 木曾美沙子 上地 操 喜多村光江 川崎みどり 河内ゆう子 紀井 悦子
- 菊地 綾子 木曾美沙子 北 孝史 喜多村光江 木村 和子 木村 和子
- 木村 弘子 木村 雅恵 木本美枝子 清田 優子 桑島たつ子 草本 和子 楠本 泰子
- 久保田路乃 黒澤美貴子 黒部 一丸 桑島たつ子 古賀 幹章 小森 王子 小森 王子
- ◆コ 小林 敏男 小林 信子 湖上 尚美 小林 隆士 小森 王子 小森 王子
- 小山 裕子 近藤 信二 小林 葉子 小松 智子 小森 王子 小森 王子
- 酒井美智子 近藤 信二 近藤 繁子 小松 智子 小森 王子 小森 王子
- 指田 京子 榊原 隆太 坂齋三枝子 佐藤 悦子 齋藤 莊之助 齋藤 恭子
- 佐野 知子 佐藤喜美恵 佐藤 定雄 佐藤 悦子 齋藤 恭子 齋藤 恭子
- 柴田とよ子 澤藤 信子 澤村 幸子 島村 照子 白川 啓子 鈴木 正子
- 下村 秀子 島田 裕子 島津 直美 白川 啓子 鈴木 正子 関 ひさ
- 梶村 千津 庄司 恵子 東海林 崇 白川 啓子 鈴木 正子 関 ひさ
- 鈴木 リツ 角野 友美 ◆セ 関川 昌子 ◆タ 高橋知江子 高橋 純子 高橋 恒子
- ◆ソ 十川いつみ 高梨 安子 高野 晴子 竹内 直樹 竹内 直樹 竹内 直樹
- 高田 耕多 高梨 安子 高野 晴子 竹内 直樹 竹内 直樹 竹内 直樹
- 高橋 吉巳 滝口 久恵 竹内 直樹 竹内 直樹 竹内 直樹
- 田中久美子 田中三一子 ◆チ 鶴岡 道 鶴岡 道 鶴岡 道
- 田村 美子 網島 和子 網島 和子 網島 和子 網島 和子 網島 和子
- 土屋 郁子 富田 修一 豊田 あや 豊田 あや 豊田 あや
- 土志田康浩 長嶋 君江 中島 博明 中島 博明 中島 博明
- 中島 淳子 中村 和彦 西谷 大介 西谷 大介 西谷 大介
- 西崎 猛之 西崎 宣雄 野畑 勢津 野畑 勢津 野畑 勢津
- 野田 良信 野中多津子 服部千枝子 花立 悦治 花立 悦治 花立 悦治
- 橋口奈保子 長谷川美子 長谷川 哲之 飛弾野育子 飛弾野育子 飛弾野育子
- 原 寛子 原 寛子 原 寛子 原 寛子 原 寛子 原 寛子
- 樋高三恵子 平野 敦司 平野 敦司 平野 敦司 平野 敦司 平野 敦司
- 平根 寛 平野 敦司 平野 敦司 平野 敦司 平野 敦司 平野 敦司

深澤 良子 藤田はるみ 古谷 大輔 ◆マ 松下 寿子 三橋千代子 宮治 容子 持川 光代 八塚 住子 山里 恒子 ◆ユ 吉野 典子	深津 淑子 藤田 久子 ◆ホ 前田いづみ 松嶋美佐子 三橋満里子 宮田 和恵 森 敬子 柳村 典子 山田小夜子 結城由美子 吉味 徳子	福永 牧子 藤永美恵子 星野 敦子 牧野 岬子 松田 文子 南 慶子 ◆ム 森 優美 矢野 博子 山田千賀子 ◆ヨ 米田 和彦	福本 秀子 藤野 英明 堀田 礼子 増田 雅子 松橋 秀之 峯岸 俊夫 向野 和雄 森口 弥生 山口 明子 山田真由美 吉岡 喜子 ◆ワ	福山 笑子 藤吉 康司 堀木 一男 松石 裕子 松山 幸生 峯岸 文子 村木 順子 森田 茂實 山口いね子 山田 理子 吉住真理子 若尾 正子	藤井 征子 藤井 明子 堀本 洋子 松浦恵美子 ◆ミ 籙島 典代 村木 正子 森原 久子 山口 奈巳 吉田佳南子 渡辺 繁子	藤崎 孝子 古川恵美子 本宿 怜子 松尾恵津子 三島 洋子 宮坂 寛子 ◆ヤ 山口 善弘 山本 ぎく 吉田 常美 渡辺 詢子	藤田 妙子 古川 淳一 本多 直子 松木 英雄 溝幡三紀子 宮嶋 久枝 ◆モ 柳下 修 山崎恵美子 山元 桂子 吉田よし子 渡辺 静江
--	--	--	---	--	--	--	--

◎維持会費 (法人)

安楽寺 (株)一幸堂	圓光院	京浜急行電鉄(株)	(有)京横興発	香象院	廣徳寺	光明院
国分寺 金蔵院	西善院	相鉄ローゼン(株)	真福寺	荘厳寺	増徳院	(株)高島屋横浜店
(株)デザインコンピビア	東昌寺	東漸寺	(株)ネピロード	(株)横浜銀行本店	一般社団法人横浜市医師会	
蓮光寺						

◎維持会費 (団体)

カトリック国際協働会	神奈川県神社庁	神奈川県精神保健福祉協会	鎌倉恩寵教会
杉山神社幼稚園 蒔田教会	横浜菊名教会壮年会	レデンプトリスチン修道院	

◎一般寄付 (個人)

◆ア 新井 裕子 石井 初夫 岩角 良信 植木あい子 ◆オ 大平みちよ 小貫 洋子 片山功仁慧 亀岡 大造 木原由紀子 出太美夫 小森みね子 坂齋三枝子 佐藤有見子 島津 直美 杉山 孝博 十川いづみ 高原 将光 田中三一子 ◆テ 鳥海 薫 永田千鶴子 西嶋 梅乃 ◆ハ 原川 博光 百武 紀子 深澤 祥江 ◆ホ 松嶋美佐子 籙島 典代 ◆ム 森口 弥生 山里 恒子 結城由美子 ◆ワ	青木 英人 荒川 節子 石井 保弘 岩崎美奈子 植田 茂子 大江 美香 大輪 靖宏 小畑 克 加藤 明美 川崎みどり 木村 和子 香山 一江 小森 詳宏 桜井 恭子 佐藤美佐子 下会所一恵 鈴木江美子 ◆タ 滝口 久恵 谷沢 栄司 手塚 正子 ◆ナ 仲手川徳幸 西谷 大介 芳賀 宏江 原崎 郁夫 平尾 良子 福山 笑子 堀本 洋子 松田 文子 三宅 玲子 向野 和雄 ◆ヤ 山田小夜子 ◆ヨ 和賀 順子	青野 幸子 有川紀巳子 石川えい子 岩澤 敏一 植田 雅子 大久保 明 岡田 信子 小原 勉 加藤 征三 ◆キ 木村 弘子 小林 絹代 昆 智恵子 佐々木伊奈子 佐野 知子 下山 弘至 鈴木 リツ 高島千恵子 滝沢 潔 ◆チ 寺井 政江 永井 嵩朗 永野 洋子 二宮やす子 橋口奈保子 原田 勝男 平根 寛 福山 清蔵 本宿 怜子 松村 清司 宮坂 宏 村田 寛子 矢谷安紀子 山田 正夫 横山 慶子 渡辺いづみ	明瀬カズミ 有田モト子 石川 充子 岩橋 圭子 鶴養 宏 大久保洋子 小川由起子 ◆カ 加藤 浩子 ギマラエス マルシア 清野 陽子 小林 敏男 近藤 信二 佐々木ノブ 沢野 裕之 庄司 恵子 ◆セ 高瀬 道子 竹崎 裕子 長南 康子 ◆ト 中尾久美子 中林 淳子 丹羽 慧子 花里 典広 ◆ヒ 平野 孝夫 藤吉 康司 ◆マ ◆ミ 宮崎 恭子 ◆メ 山口 明子 山田真由美 吉岡 喜子 渡辺 繁子	秋山 英代 ◆イ 石附 峰子 岩橋 史明 内山 理恵 大須賀洋・靖子 荻原 京子 柿沢 純江 加藤真知子 ◆ク 小林 信子 近藤 繁子 佐治恭仁子 35期有志 東海林 崇 関川 昌子 高野 耕多 竹野内恭子 ◆ツ 土志田康浩 中川 董子 中村 和彦 ◆ノ 花立 悦治 東 大策 平野 孝使 藤井 明子 前田いづみ 三島 洋子 宮嶋 久枝 目黒 裕 山口いね子 山田 理子 吉川 建司 渡辺 詢子	浅岡いつ子 飯塚由紀子 磯野喜美子 岩淵 菜々 ◆エ 大貫まち子 奥田 紀子 加行 尚 加藤 葉子 菊地 綾子 楠本 泰子 小林 芙美子 ◆サ 佐藤 定雄 ◆シ 陳岡 啓子 関 ひさ 高橋久仁江 館 東子 辻川 篤 外村 敬子 中島富美子 那須 泰治 野沢 純子 花村 節子 樋口 純子 平本 淳一 古川恵美子 牧田きみ子 水谷 透 宮治 容子 ◆モ 山口 奈巳 山本 ぎく 吉田よし子	安達 理恵 伊草 淳子 五十畑誠子 岩本 満 江口 洋子 大野 房枝 落越 道彦 春日智恵美 金子 由紀 木曾美沙子 久米 邦子 小林富美子 材木 明子 佐藤 高 重宗美智子 ◆ス 瀬田 義雄 高橋 美帆 田中 巖 坪内 重子 富田 重次 中須安見子 ◆ニ 野沢 豊 馬場 泰子 久野 高雄 ◆フ 古川 淳一 増田 拓也 三橋千代子 宮田 和恵 森 敬子 山口 幸子 山元 桂子 吉味 徳子	雨宮 里美 池田 敦子 井上美佐子 ◆ウ 江淵 武雄 大原英里子 尾中 孝子 片柳 時枝 上地 操 喜多村光江 ◆コ 小林 葉子 酒井美智子 佐藤 鉄郎 柴田 明一 梶村 千津 ◆ソ 高橋 吉巳 田中 英雄 鶴田 京子 富田 修一 長瀬 陽子 西川 綾子 野畑 勢津 濱田 静子 菱山 米子 深沢 聖子 古谷 英之 町田 浩 三橋満里子 宮原千鶴子 森 優美 山口 善弘 ◆ユ 米田 和彦
---	---	---	---	---	---	---	--

◎一般寄付 (法人)

(株)アーバン企画開発	(株)一幸堂	圓光院	汲沢電設(有)	(有)京横興発	医療法人社団 朋友会
けやきの森病 香象院	医療法人三精会	汐入メンタルクリニック	西善院	増徳院	(株)大神設備工業
公益社団法人 日本産業退職者協会	ハニーミルク(株)	(有)フットフィール		ブラジル銀行 在日支店	
蓮花院 (株)TMK					

◎一般寄付（団体）

厚木幼稚園 栄光学園愛の運動委員会 霞ヶ丘教会 カトリック鷺沼教会 カトリック藤沢教会福祉部
 神奈川県看護協会事務局 鎌倉雪ノ下教会 関東学院六浦中学高校 キリスト教教育研究会 鶴沼めぐみルーテル教会婦人会
 ケベックカリタス修道女会 国際ソロプチミスト横浜西 桜ヶ丘幼稚園 湘南YWCA 篠原教会 新横浜教会
 捜真女学校中学部高等部 捜真女学校同窓会PTA 茅ヶ崎恵泉教会 日本基督教団戸塚教会 日本基督教団清水ヶ丘教会
 日本キリスト教団 返子教会 日本基督教団田浦教会 日本基督教団 ひの木教会 日本基督教団横浜港南台教会
 日本ホーリネス教団 女子学院中学校高等学校 藤沢教会 藤沢北教会 藤沢北教会婦人会
 保土ヶ谷カトリック教会 翠ヶ丘教会 紅葉坂教会 横須賀学院 横浜海岸教会 横浜指路教会 横浜磯子教会 横浜英和学院
 横浜共立学園 横浜女学院中学校高等学校 横浜雙葉中学高校 横浜南0-刈-カワ レンブトリスチン修道院 六角橋教会

事業支援委員会 感謝録

社会福祉法人横浜いのちの電話の一組織として、バザー・コンサートなどの支援会活動を行いました。その収益を横浜いのちの電話の相談活動の運営資金として協力することができました。活動を支えてくださった多くの方々・団体に感謝いたします。

秋のコンサート・春の映画会 広告協賛企業

難波学園横浜調理師専門学校 (株) 有隣堂 社会福祉法人 鎌倉静養館
 ヨコハマ動物病院 (有) 三彩社 カサイ企画
 (株) ガトーよこはま (株) オリマツ 横浜醤油 (株)
 (株) つま正 (有) ヨネヤマプランテーション (株) モトマチ
 (株) ロイヤルホールヨコハマ オハナ・イングリッシュ・プリスクール
 戸越税理士事務所 日本大通り法律事務所 (株) ハマ住センター
 センター北ねがみクリニック 発達改善スクールハッピーテラス茅ヶ崎駅前教室
 国際ソロプチミスト横浜西

ご協力いただいたバザー会場

1	4月23日	カトリック雪の下教会	11	10月28日	神戸女学院同窓会東京・横浜
2	4月29日	日本基督教団横浜港南台教会	12	10月28日	鎌倉婦人子供会館
3	6月 2日	湘南YWCA(ミカエル教会)	13	10月29日	フォーラム祭
4	6月 4日	カトリック渋谷教会	14	11月 3日	日本基督教団返子教会
5	6月10日	フレンドリースペース金沢	15	11月 9日	神戸女学院同窓会東京・横浜
6	6月15・16日	ブラジルフェスタ	16	11月10日	湘南YWCA(ミカエル教会)
7	10月 8日	カトリック鶴見教会	17	11月19日	カトリック菊名教会
8	10月 9日	日本基督教団鎌倉恩寵教会	18	11月26日	カトリック二俣川教会(ミニバザー)
9	10月20日	神戸女学院同窓会東京・横浜	19	3月 9日	横浜いのちの電話春の映画会
10	10月21日	カトリック山手教会			

支援会ボランティア・資金ボランティアで ご協力いただけませんか。

お問合せ先 事務局 045-333-6163

支援会ボランティア

横浜いのちの電話の電話相談活動を資金面で支える、支援会ボランティアには、手作り品の製作に励むバザー部会と、映画やコンサートの企画立案をする催し物部会があります。両部会とも、仲間と楽しみながら自分のできることで社会貢献できるのが喜びになっています。

資金ボランティア（寄付のお願い）

眠らぬダイヤルとして24時間体制で電話相談を続けていくためには、運営資金が必要です。維持会員または賛助会員になって資金面でのご協力をお願いします。皆様の温かいご支援をお待ちしています。

○維持会員（毎年一定額を援助して下さる方）

個人 年間1口 3,000円 5,000円 10,000円

法人 年間1口 10,000円（何口でも可）

○賛助会員（随時、任意の額を援助して下さる方）

振込先 郵便局 00240-3-151591

社会福祉法人横浜いのちの電話

<表紙の絵について作者の言葉>

カンバニュウラ（キキョウ科）

ハンドベルを連想させてくれる花、きれいな音を聴きながら「ありがとう」と言って手渡したい花です。花言葉は「感謝、誠実」、この気持ちを日々の生活の中に取り入れていきたいです。(M. K.)

いのちの電話は
いつもあなたのそばにいます
一人で悩まずにご相談ください
24時間・年中無休の眠らぬ電話です
名前をいう必要はありません
相談内容の秘密は必ず守ります



日本語電話相談

045-335-4343

外国語電話相談

0120-66-2477 スペイン語

0120-66-2488 ポルトガル語



横浜いのちの電話 2017年度事業報告

発行日 2018年7月

発行者 松橋秀之

発行所 社会福祉法人横浜いのちの電話

〒240-8691

横浜市日本郵便保土ヶ谷支店私書箱32号

事務局 Tel 045-333-6163

fax 045-332-5673

<http://www.yind.jp/>



この報告書は神奈川県共同募金からの配分金で作成しました。